

平成28年度第1回岐阜県総合教育会議 議事録

1 開催日時及び場所

平成28年7月13日(水) 16時15分 ~ 17時20分

岐阜県庁舎 4階特別会議室

2 出席者

知事 古田 肇

教育長 松川 禮子

委員 稲本 正

委員 月村 時子

委員 野原 正美

委員 森口 祐子

3 オブザーバー

副知事 上手 繁雄

清流の国推進部長 神門 純一

副教育長 安福 正寿

4 陪席

清流の国づくり政策課長 尾鼻 智

教育総務課長 國島 英樹

5 議事録

別紙のとおり

議 事 録

発 言 者	発 言 内 容
神門部長	これより平成28年度第1回岐阜県総合教育会議を開催する。 本日の議題は、県立高校活性化計画（仮称）である。
県立高校活性化計画（仮称）について	
安 福 副教育長	資料1、参考資料により説明
意見交換	
稲本委員	<p>今日、可茂特別支援学校を視察した。本来想定していたよりも1.5倍くらい的人数が入っており、先生だけでも140人いる。かなり軽度の方から重度の方まで幅広い。かなり軽度の人たちは、ここで甘えてしまうと結果的には社会参加が難しくなってしまう。重度の人には、先生が一人に一人付いており、充実してきていると思う。</p> <p>ただ、ひとつ懸念は、特別支援学級に十分行ける子が、特別支援学校に行っている。それから、軽度から重度まであれだけ幅広く一つの学校が運営するというのは大変。なるべく特別支援学級を充実させないといけないという感じがした。</p>
知 事	<p>その点は、市町村長との意見交換の場で行った話として、通常の高校に通わせたいが、バリアフリーになっていない、きめ細かな指導が今ひとつということで、特別支援学校の方へ行っている。</p> <p>だから、通常の高校でももう少し丁寧な対応が出来れば、むしろその方が望ましいので、どの程度ニーズがあるか見極めて、そちらに道を開いたらどうかという意見があった。</p> <p>おっしゃるように幅があるというのはそういったことだと思う。</p> <p>それで、とりあえずは特別支援学校の高等部が出来たので行くけれども、すべての方が必ずしも行きたくて行っているわけではないという意見があって、どういう人をどこに配置するのがいいとか、それぞれの学校のキャパシティはどうかとか、その辺りを丁寧に分析しなければいけないという感じはしている。</p> <p>ただ他方で、あなたはこちらですよと強引に決めつけるわけにもいらない。どの辺までを希望制にするのか、どの辺までをこちらの方がいいですよと積極的にガイドしていくのがいいのかとか、そのやり方を考えなければいけない。</p> <p>また一方で、通常の高校のユニバーサルデザインをすれば、新たな投資が必要になる。それをどこまでどうするのか、受け入れ可能なところをエリア的にどう決めていくかという課題もある。</p>
教 育 長	「子どもかがやきプラン」で12校から20校にかなり急激に、全国でも

	<p>類を見ないスピードで整備している。また実際できた特別支援学校がなかなか良いということで、中学校までは普通の学校にいらっしやって、卒業後に特別支援学校の高等部へという方が、想定よりもかなり増えてきている。</p> <p>そうすると、小学部、中学部から高等部へ上がってきた子どもたちに対する丁寧な指導が行き届かなくなってくる。</p> <p>現在、特別支援学校の高等部に在籍している生徒には、かなり幅がある。だから、高等部でみるのか、一般就労に向けて今度できる高等特別支援学校の総合産業科へ行くのか、それとも一般の高校へ進学するのがいいのか。いかに最適な進路を用意していくかということだと思う。</p> <p>高校において、特別支援学級とか通級とかは少し前なら考えられない話だったが、高校が限りなく義務教育化してきて、しかも中学校まで特別支援学級という子どもも多くなってきた。小学校、中学校ともいわば普通の学校に行っていた方なので、卒業後、すべて特別支援学校に行くのかということ、そうではなくて色々な選択肢をどう用意していくかということだと思う。</p> <p>資料のデータにもあるように、現在、一般の高校に100名を超える障がいのあるお子さんが来ている。障がいの程度に幅があるので、それぞれの学校で個別に対応しているのが実情で、きちんとした組織的な対応が出来てない。</p> <p>これに対しては、核となるクラスなりを作ってケアしていくということと、障がい者差別解消法ができたこともあるが、障がいのある方も学校を出てからは一般社会と一緒に暮らしていくわけだから、そういう意味では、就労による自立力をつけるのと社会参加をする力を高校のレベルでも考えていく必要がある。</p> <p>だから障がいのある生徒たちの受け入れ先を特性に応じてきめ細かく用意し、本人にも保護者にもわかりやすいアプローチをしていく必要が出てきているのではないかと思っている。</p>
知 事	<p>そういう意味では、就労支援をどうやるかということとセットである。高校時代にそれをやらなければいけない。それが出来るところはどこかということとの兼ね合いもある。</p>
教 育 長	<p>例えば、千葉県は高等特別支援学校の先進県だが、高等特別支援学校を作ることによって、特別支援学校と高校との垣根が大分低くなっている。極端な話をすると、高等特別支援学校の入試に落ちた人が高校に行くというケースが出てきた。今まで高校と特別支援学校とは全然レベルが違うものだという認識があったが、ここのところは限りなく垣根が崩れてきているという意見を伺った。</p> <p>障がいも、その程度もいろいろある中で、きめ細かい選択肢をどう用意して、就労と社会的自立にどう結び付けていくかを、福祉部門と一体になって考えていく必要が出てきたと思う。</p>
知 事	<p>垣根が崩れていくというのは、ある意味いいことでもある。</p>
教 育 長	<p>その通り。インクルーシブ教育と言われるように、最終的には障がいのある人もない人もみんな一緒に暮らしていくということなので、その道をどのように緩やかにして作っていくのかということに注力しなくてははいけないと改めて考える時期に来たと思っている。</p>
稲本委員	<p>特別支援学校で、軽度の生徒には木工の糸鋸作業があるが、集中したらずっと同じペースでやり続け、いい作品を作っている。企業からすれば、そういうことができるなら来てほしいというオファーがあると思う。</p>

教 育 長	かなり集中してやっていた。見物人がいても気にせず黙々と。
稲本委員	<p>高校活性化の意見交換会で、可児市と飛騨の方に行ったが、統合に関する基準や数字が先行すると、うちの学校がなくなるのではないかという不安感が先に立ち、活性化の議論にならない。</p> <p>ある校長が言っていたが、活性化をするのであれば、まず徹底的に活性化をする。活性化が進んでない段階で統合の話が出てくると、前向きな議論と後ろ向きな議論が交錯してしまうという指摘があった。確かにそうだと思う。</p> <p>その地域地域に合った活性化とは一体何か。それぞれの地域でどうしていくのかということをやっただけやって、それが出来なかったら統合もありますよという議論の方がいいような気がしている。</p> <p>要するに、県が押し付けたみたいにならないようにしてほしい。</p>
野原委員	<p>私は、西濃、美濃、東濃、飛騨の4地区の意見交換会に出席させていただいたが、4地区ともスタンスが違うと言うか、やっぱりその地域の特色をどうしていったらいいかということが一番に考えていらっしゃる。</p> <p>飛騨は、特に面積が広いので、学校がなくなれば市の死活問題だということで大変危惧していらっしゃる。やはり再編統合検討対象として校名が出てしまった段階で、一番心配しているのは保護者。</p> <p>ここに名前が出なかった学校の保護者の方まで先生に、うちは大丈夫ですかという意見が出たともおっしゃっていたので、保護者としては、自分の子どもが行くときに学校がなくなってしまうたらどうしたらいいかというような、まさに目の前の心配事として大きな報道だったということをしごく感じた。</p> <p>もっともその度に、県教委の教育主管さんが、統合ありきではなく、これからどう活性化していくかの議論に力を注いでほしい、皆さんで考えてほしいとお話しされていたが、まずイメージを払拭するところから始めないと、統合ありきで話が進んでしまっただけでは全く残念。</p> <p>とにかく岐阜県は広いので、クラス数とか人数とかで基準を決めてしまうのではなく、やはりそこに住む人たちの意見をどんどん聞き入れていかないといけないと、どこの意見交換会でもお話しさせていただいたが、その辺を大事にしていきたい。</p>
稲本委員	<p>これは、活性化策をまずもっともっと議論して、最後に統合の話に進めばいいが、統合ありきと捉えられた瞬間にダメになってしまう。</p> <p>この「審議まとめ」の活性化の方向性については、すごくよく議論されていると思う。リーダー育成やグローバルな能力、経済の基盤になる能力とか自立心とかの方向性など、これでもって活性化するというのはすごくよくできている。これを地域に合わせてどうやるかという議論をもっと高めていったほうがいい。</p> <p>ちょっと夢みたいな話をするが、飛騨市神岡のカミオカンデには、日本だけでなく世界から、ノーベル賞級の学者がかなり関わっているのだから、校長になってもらって、その人の講義が年1回あるだけでも魅力。なおかつ中高一貫の寄宿制の高校とすれば、いい学校が出来るんじゃないか。</p> <p>もう一つは、可児市のあたりは外国人が多い。むしろ増やせるだけ増やして、国際交流をメインにした学校にするとか。</p> <p>こういうふうには、やるだけやってもだめだったら、それはもう統合するしかない。そういう順序で議論するのがいいのかなと思う。</p>

知 事	資料に「再編統合に関する基準が必要」と書いてあるが、基準は作るのか。
月村委員	<p>こういう書き方をしてしまうと、地域の人たちは危機感を感じ、活性化という前向きな姿勢よりも悲観的な気持ちで臨んでしまう。その辺は、気を付けないといけない。</p> <p>まだ活性化計画の意見交換会には出席していないが、可茂学区の東濃高校で生徒が減り始めて、色々と取組みを始めているところに見学に行った。</p> <p>実際に学校を見て感じることは、地域性・特性を生かしていかないといけないということ。地域の住民が、自分たちの地域ではどういったことが生かせるのかということを感じ、話し合える会議の内容にしていけないといけない。</p> <p>美濃加茂地区は、外国籍の方が多いので、国際交流をメインにしていくというのは地域の特性が生かされると思う。文化センターがあるので、学校と文化センターが連携して、新しい学校体制を構築していかなければ活性化は見えてこないのではないかな。</p> <p>そういった特徴を持った高校に移行していくためには、専攻科を設けて就労に結び付けられるような体制も考えていかないといけないのではないかな。</p>
森口委員	<p>今日、特別支援学校の施設を見学してきた。安心して子どもを預けられる環境で、とても立派な建物だった。</p> <p>一方で、障がいのある方一人ひとりがどのように社会に出ていくかを考えた時に、難しい問題が山積み。先生の抱える問題が普通の学校よりは負担が大きい。</p> <p>通ってくるお子さん達の交通手段が多種多様で、下校時間もバラバラ。働いている親さんのことを考えると、地域に密着した交流を持たないといけない。医療や地域との密着がないと、特別支援学校の存続は難しいと感じた。</p> <p>子どもたちが社会に出ていく上で、バリアフリーでないところに適応能力を高めていくには、健常の子どもたちと交流ができるような形で、一緒に刺激し合えるような場所があればと思う。</p> <p>県立高校活性化計画では、一つには少子化という大きな問題があると思う。学校の数をどうするかというシミュレーションは、バランスを取るのが難しい。県や私たちができるのはどこまでなのか、関われば関わるほど迷ってくる。</p> <p>昨日、西濃地区の意見交換会に出席したが、活性化についていい意見交換ができた。ただ、中学校、PTA、高校それぞれに意見がある。</p> <p>中学校の校長から、親の二極化が時代と共に激しくなっていると聞いた。経済的な問題もあり、親の教育に関しての関心度が二極化している。</p> <p>授業がアクティブな学校と思っても、座って先生の授業を受ける一方通行という感が否めない。統合の議論の中で、逆に少人数だからこそ、心に寄り添う個人の将来を考えた教育が手厚くできるのではないかなという意見が、中学校の先生からあった。</p> <p>PTAの人たちからは、高校の偏差値をもっと開示してもらった方が選びやすい、高校の特色をもっとアピールしてほしいという意見があった。</p> <p>不登校の生徒を持つ親御さんには、どういうふうに学校がケアしてくれるのかという心配があり、親・子・地域のつながりというのが一番根柢の部分なのかなと思った。</p> <p>国際バカロレアの高校の校長先生からは、これから実績を出せるので、結果をお示しいただけると伺った。</p>

	<p>高校の発信力を高めないといけないという校長先生もいらっしやった。小中学校は地域との交流が密接だが、高校となると地域との距離がある。もっと地域に入り込むことによって、地域の方にも学校を育ててもらえる。</p> <p>高い水準を求める教育もちろん大事だが、最新の機器を導入して教えたとしても、社会に出るころには古くなっていることもある。学校として、子どもたちの将来にどのくらい責任を持てるのかといったジレンマも聞かれた。</p> <p>私としては、意見交換会に出れば出るほど悩ましかったが、そういうランダムな意見が出る雰囲気だったことは、意見交換としてはとても良かったと思う。</p>
稲本委員	<p>自動車の運転では、人間より人工知能の方が優位だというのが、クリエイティブなことは人間しかできない。教育というのは、どういう時代が来ても対応できるような対応策を考えなければならない。</p> <p>また、ある大学の研究では、人間の幸福度合いは、学歴や所得ではなく、地域や周りの人たちとの関係によって決まるといふ。教育は、そういうことも大きく俯瞰しながら考えることも必要ではないかと思う。</p>
森口委員	<p>将来の企業が望むものという中で、ロボット、AI（人工知能）、外国人というキーワードが出てきた。</p> <p>外国語がある程度話せて、交流ができて、ロボットや機械を操るある程度の知識が必要と考えれば、少子化になるので、企業にすれば人員をどこから持ってくるのか。日本人だけで足りないとなると、外国人。そこで一緒に働いて協調性を保てると考えると、コミュニケーション能力が必要。こう考えると、教育のあり方にも見えてくるものがあると思う。</p>
18歳選挙権について	
神門部長	資料2-1、参考資料、資料2-2、参考資料、資料2-3により説明
稲本委員	<p>投票率も大事だが、よく考えて投票したかが重要。</p> <p>外国では14、15歳から現代史をよく教えている。現代史を教わり、政治に参加する訓練を小さい時から受け、判断力を身につけて、やっと投票に行くというふうでないとだめ。</p>
教育長	<p>主権者教育ということでいろいろ取り組んできたが、主権者教育は単なる選挙教育ではない。現代史や政治経済について、主権者教育と銘打たなくても学校でやっている授業を受けて、考えることができる子どもを育てることがベース。</p> <p>少なくとも、明治以降の歴史についてあまりにも知らなさすぎる。今度、日本史と世界史が合体した科目ができるようなので、そういうことがベースにならないと、主権者教育も何もない。</p> <p>今回の参院選では18歳の方が19歳よりも投票率が高いが、18歳といっても高校生では、4月、5月、6月生まれくらいの子しか投票権がなく、大学生がメイン。県外に進学している大学生も多く、このような数値になるのではないかとある程度予想していた。これからも選挙はあるわけなので、今後の動向をフォローしていきたい。</p>
知事	<p>大学の先生に聞いたが、岐阜県の大学にいる学生の6割が県外から来ている。その人たちは、ほとんど住民票を移していない。逆に、岐阜県に住民票を置いたまま県外に出ている学生も多い。したがって、学内に期日前投票所を置いて、来るのはご近所の方。一回やってみて、いろんなことがわかつ</p>

	<p>てくるので、少しずつ変えていけばよい。</p> <p>歴史の部分も、高校生だからということではなく、小学生からきちんとやっていくということ。イギリスのEU離脱も、若い人たちは残留派だが、投票所へ行ったのが極めて少ない。高齢者はその逆。</p> <p>高校の活性化計画に話を戻すと、非常にいい議論が出ていると思うが、いい議論がたくさん出るところは、統合から入っていないから。統合の議論から入れば、こういった話はすべてなくなる。どういう手順で議論を進めていくかというのが重要。</p> <p>大切な論点がたくさんある中で、10月に中間報告、12月に案を発表し、その後パブリックコメントをやって、3月に完成といくのか。教育長のお考えもあると思うが、スケジュールとやり方を含めて、統合ありきではない議論を十分尽くした方がいいのではないか。地域なりに何ができるのか、何をやるべきかを徹底的に議論した方がいいのではないか。</p>
教育長	<p>高校に特別支援教育が入ってくるという話もあり、高校教育も目先に対応するというのではないので、将来、岐阜で、日本で、世界で生きていく子どもたちに何が必要かという観点で、いろんなレベルで質の高い多様性のある教育をどう提供できるかということ。</p> <p>昔は、県内一律に同じような普通科高校を作ったということだったが、これからはそうではないと思う。そういう意味では、いろんなレベルで質の高い教育の選択肢をどう作って配置していくのかという問題なので、稲本委員のおっしゃられたような、スーパーサイエンス、スーパーグローバルといった高校が必要なら必要で、どこに作るのかといった話になる。</p> <p>一方で、中学校まで不登校気味であった生徒や障がいのある子どもたちが復帰するような意味で、社会自立に向けて力をつける学校も必要である。</p> <p>こういう機会なので、いろいろな高校を考えて、それをどこにどう配置するのかを根本的に考えた方がよい。</p> <p>出し方がまずかったと思ったのは、急激に小規模化が進む学校とかそういう言い方ならまだしも、「再編統合検討対象校」という名前をつけたこと。ある意味では、そういうふうに出さなければ、みなさんが本気になってもらえなかったということもある。そういう意味では、地域の方も本気になってもらえているので、一緒に考え、結論はそう急がなくてもいいと思っている。</p>
知事	<p>多様な選択肢を用意しないとイケない。</p> <p>他県の知事が言っていたが、中高一貫校で非常に質の高い教育をする学校を作ったところ、みんながそこを狙っていくため、それ以外の県立高校が非常に荒廃し、なかなか元には戻れないと言っている。</p>
稲本委員	<p>世界の中で、日本の良さがどこにあるのかといった観点が教育にも必要になってくると思う。</p>
神門部長	<p>それでは、これをもって本日の会議を終了する。</p>